

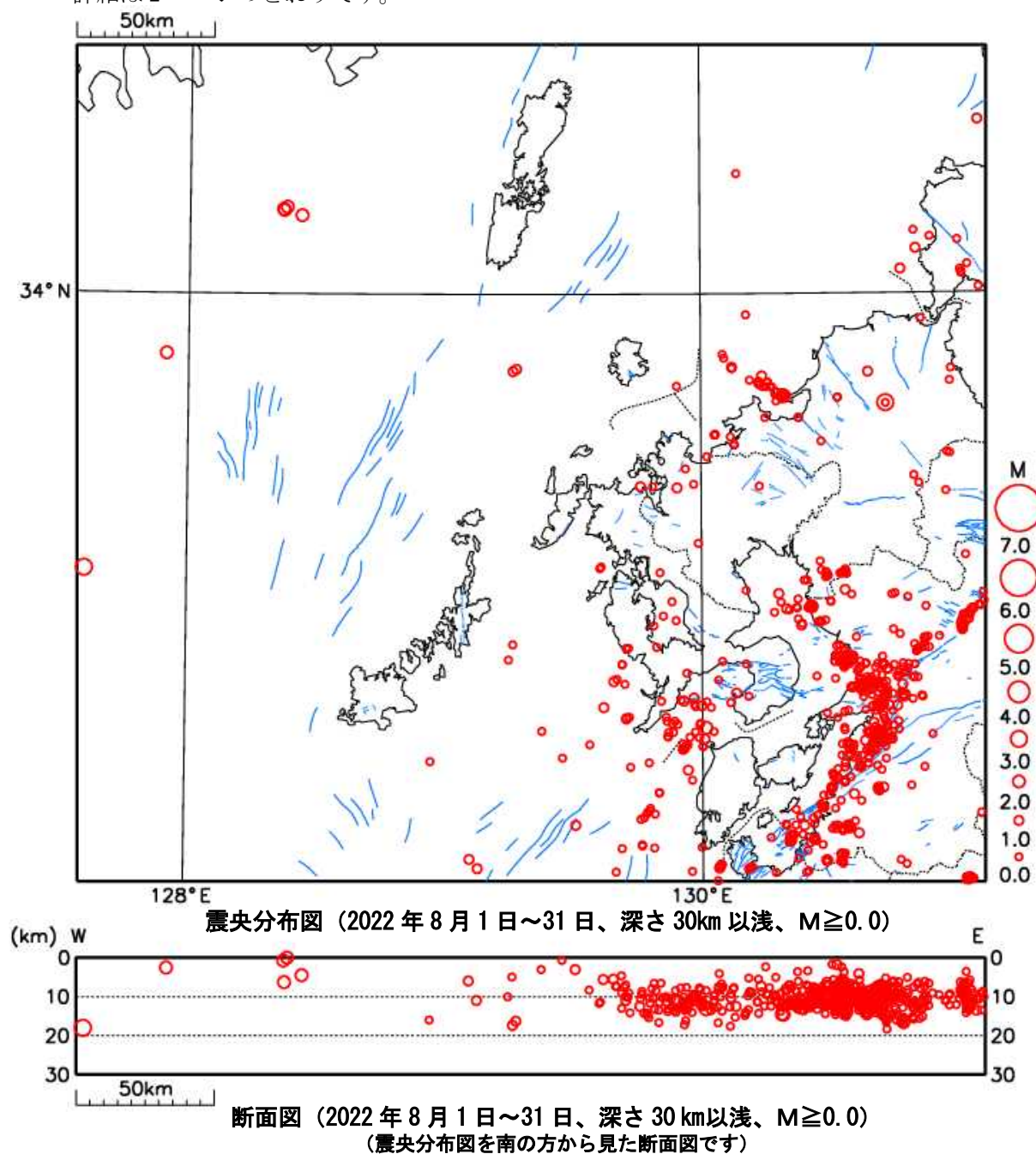
長崎県の地震活動概況（2022 年 8 月）

令和 4 年 9 月 8 日

長崎地方気象台

地震活動の概況（2022 年 8 月）

8 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は震央分布図領域外の 1 回でした(7 月は 2 回)。詳細は 2 ページのとおりです。



- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ※ 2022 年 8 月 1 日から暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られることがあります。

天草灘（1 頁震央分布図領域外）

26 日 08 時 48 分に天草灘で発生した M4.5 の地震（深さ 12 km）により、鹿児島県長島町で震度 4 を観測したほか、九州地方で震度 3～1 を観測しました。長崎県では雲仙市及び南島原市で震度 2 を、長崎市及び諫早市で震度 1 を観測しました（図 1）。

今回の地震の震源付近（図 2 領域 a）は、普段から地震活動が見られる領域で、2012 年 8 月 17 日に発生した M4.9 の地震（深さ 10km）により、県内の広い範囲で震度 2～1 を観測しています（図 2、図 3）。

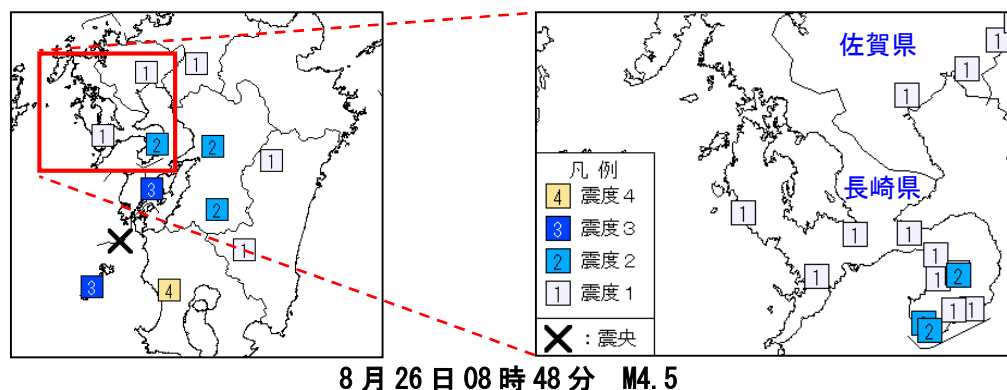


図 1 震度分布図（左：地域別、右：観測点別）

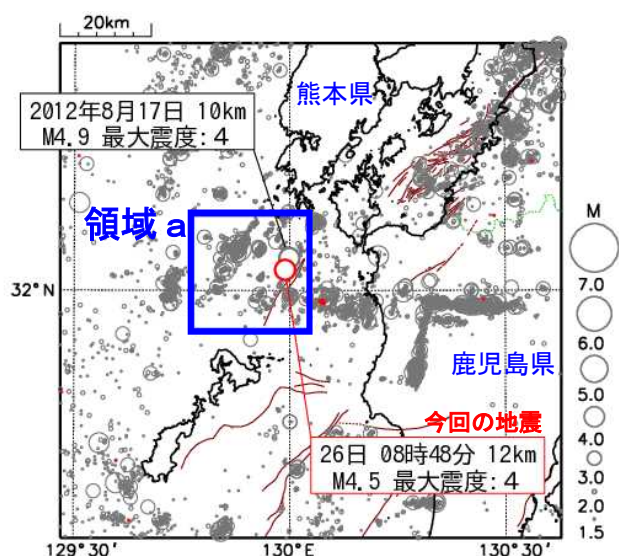


図 2 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日～2022 年 8 月 31 日 深さ 0km～20km M $\geq$ 1.5)

※2022 年 8 月 1 日以降の地震を赤で表示

※図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

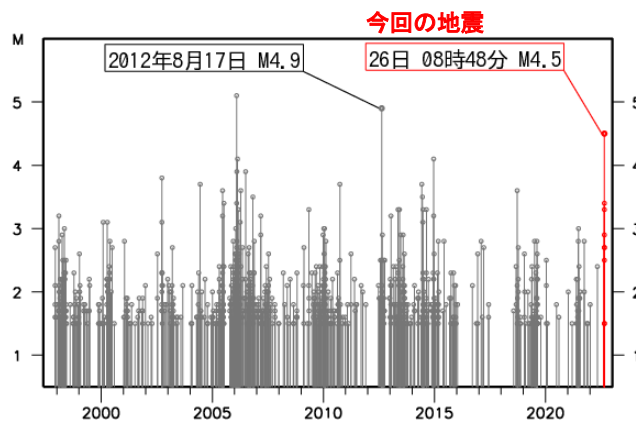


図 3 図 2 領域 a 内の地震活動経過図

長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表（8 月 1 日～31 日）

地震発生時刻 各地の震度	震源地名	北緯	東経	深さ	規模
2022 年 08 月 26 日 08 時 48 分	天草灘	32° 02.4' N	129° 59.3' E	12km	M4.5
震度 2	雲仙市小浜町雲仙, 南島原市口之津町*, 南島原市加津佐町*				
震度 1	長崎市元町*, 長崎市神浦江川町*, 諫早市多良見町*, 諫早市森山町* 雲仙市千々石町*, 雲仙市雲仙出張所*, 雲仙市小浜町北本町* 南島原市北有馬町*, 南島原市西有家町*				

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度について

解 説 資 料

長 崎 地 方 気 象 台

○計測震度計と震度

地震が発生した時に各地の揺れの状況を把握することは、地方公共団体や防災機関による初動対応において大変重要です。

地震による各地の揺れの強さは、全国約4,400か所※¹に設置された計測震度計（図1）により観測され、「計測震度」として気象庁に集約されます。気象庁ではこれらの計測震度を「震度階級」（表1）に換算し、震度1以上の揺れを観測した地点があった場合、各地で観測された震度の情報をとりまとめて発表します。

気象庁が発表する震度の情報の利用に当たり、以下のことに留意してください。

①計測震度計は設置場所での揺れの強さを測定していますが、地中の地盤や地形の差異により地表の揺れの強さは変わります。例えば、同じ町内でも、震度にして1階級程度、揺れの強さが異なる場合があります。

②小規模な地震がごく浅い場所で発生した場合、震源付近の限られた範囲で揺れを感じることがありますが、震源付近にある計測震度計で震度1以上（計測震度0.5以上）の揺れとして観測されなかった場合、地震情報は発表されません。

○震度と揺れの状況

図2は、観測された震度とその周辺で発生する現象や被害の目安を示したものです（震度6弱～7を抜粋）。強い揺れに見舞われると、この図のような被害が生じるおそれがあります。

地震はいつ発生するか分かりませんので、普段から地震への備えを心がけておきましょう。

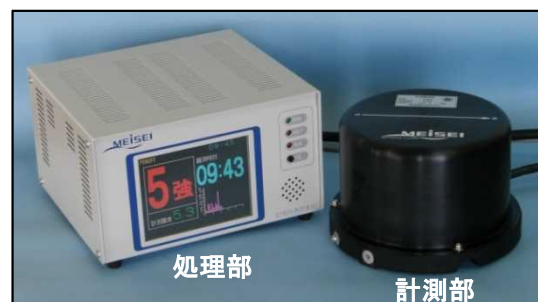


図1 計測震度計の処理部と計測部の例

表1 気象庁震度階級表

震度階級	計測震度	震度階級	計測震度
0	0.5未満	5 弱	4.5以上5.0未満
1	0.5以上1.5未満	5 強	5.0以上5.5未満
2	1.5以上2.5未満	6 弱	5.5以上6.0未満
3	2.5以上3.5未満	6 強	6.0以上6.5未満
4	3.5以上4.5未満	7	6.5以上

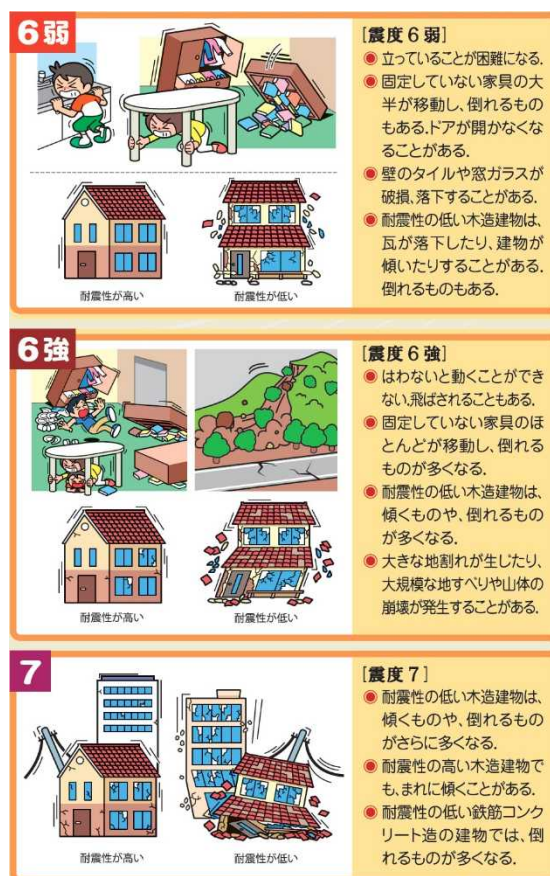


図2 震度と揺れの状況（震度6弱～7を抜粋）

※1 地方公共団体や（国）防災科学技術研究所の観測点も含みます。

震度と揺れの状況に関する詳しい説明（「気象庁震度階級関連解説表」）は、以下のURLからご覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

地震への備えについては、以下のURLからご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html#ex